

第3章 紀伊丹生川 ダム計画の 見直しについて

第1節 利水計画の確認

紀伊丹生川ダム利水予定者に対して水需要計画について確認を行ったところ、水需要が減少していることが確定しました。

(平成13年5月末)

- ・大阪府

紀の川水系からの給水量は、日量25万 m^3 の計画でしたが、日量13万 m^3 の計画に見直されました。日量13万 m^3 の内、約2万5千 m^3 は紀の川大堰により確保されます。紀伊丹生川ダムにより確保される給水量は、今後環境面を含め検討し、決定します。

- ・和歌山県

和歌山市の上水として紀伊丹生川ダムにより、日量約1万7千 m^3 供給する予定でしたが、利水参加はなくなりました。

第2節 見直しの方針

見直しについてのフローチャート

現状の調査・把握



影響の回避・低減



計画の見直し



環境に配慮したダム計画の立案

動植物・生態系について

環境調査の結果を受け、重要な生息・生育環境への影響を回避・低減します。

付替道路などの掘削を最小限にとどめ森林を保全し、影響を回避・低減します。

ダムの高さ等を見直すことにより貯水による影響を低減・回避します。

貯水池内、貯水池周辺の樹木を保全し、生息・生育環境への影響を回避・低減、創出します。

選択取水施設等の設置を検討し、ダム湖からの放流量、水質、水温による影響を低減します。

環境保全に万全を期するよう、さらに検討を行います。

史跡・文化財について

文化財調査の結果を受け、ダム堤体や貯水による影響を低減します。

貯水位の見直しにより、貯水による影響を低減します。

貯水池内、貯水池周辺の樹木を保全し、良好な景観を保全します。

通常時は貯水池の水位変動を小さくし、裸地の出現を抑制し良好な景観を保全します。

下流河川に一定の水量を補給し、良好な河川環境・景観を保全します。

環境保全に万全を期するよう、さらに検討を行います。

水質・大気等について

水文・水質、気象調査などの結果を受け、騒音や振動、水質への影響など工事中やダム完成後の影響を低減します。

河川でのレクリエーションなど、自然との触れ合いについて影響を低減します。

環境保全に万全を期するよう、さらに検討を行います。